

サマーセミナー2008 開催報告

青木義満¹⁾、佐藤美恵²⁾、寺田賢治³⁾

1) 慶応義塾大学, 2) 宇都宮大学, 3) 徳島大学

2008年度のサマーセミナーは、8月21日～22日の2日間、栃木県那須高原の那須オオシマフォーラム本館において開催された。学生の発表は若葉研究会28件、研究討論会2件の合計30件であり、それに加えて招待講演・チュートリアルセッションでは講師の先生2名に特別講演をお願いした。参加者数は企業5名、大学教員21名、学生42名の合計68名であり、非常に盛会であった。以下、今回のセミナーの概要について述べる。

1. はじめに

1992年のスタート以来、第17回目となる今回のサマーセミナーは、那須高原の那須オオシマフォーラム本館において、8月21日～22日の2日間にわたり合宿形式で開催された。映像情報メディア学会メディア工学研究会との共催で開催されたサマーセミナーとしては、2004年以来、今回で5回目となる。サマーセミナーの主目的は、最先端の研究者を招いて勉強すること、これからの技術開発を担う学生や企業の若手研究者に研究発表と研究指導者（企業研究者や大学教員）との交流の場を提供すること、両学会の研究室や研究者同士の交流を図ること、などである。

2. 開催準備と実施形態

2007年11月頃から企画を開始した。共催となるからは両組織が交代で主担当になっており、今回はメディア工学研究会が中心となった。以下に示す合同企画委員会を設置し、青木義満企画委員長のもと、佐藤美恵幹事（メディア工学研究会）、寺田賢治幹事（画像応用技術専門委員会）が中心となって準備を行った。

サマーセミナー 2008 合同企画委員会（敬称略）

青木義満（慶応大学、企画委員長）
佐藤美恵（宇都宮大学、幹事）
寺田賢治（徳島大学、幹事）
中野宏毅（日本 IBM）
渋谷久恵（日立製作所）
村松正吾（新潟大学）
村上和人（愛知県立大学）
藤原孝幸（中京大学）
糊澤 信（旭硝子）
菅野純一（ファースト）

優秀な若葉研究会での発表者に贈られる優秀発表賞については、10名で構成される優秀発表賞審査委員会を設置して審査を行った。例年と同様、審査委員会のメンバー全員がすべての発表を聴講することで公正かつ平等な審査を行った。

優秀発表賞審査委員会（敬称略）

代表会委員

青木義満（慶応大学、企画委員長）
佐藤美恵（宇都宮大学、オブサーバ）
上倉一人（NTT、メディア工学研究会委員長）
金子俊一（北海道大学、画像応用技術専門委員会委員長）
吉田俊之（福井大学、メディア工学研究会副委員長）

審査委員

糊澤 信（旭硝子）
石井 明（立命館大学）
奥平雅士（武蔵工業大学）
海老根秀之（関東学院大学）
村上和人（愛知県立大学）

3. サマーセミナー報告

3.1 参加者数

参加者数は、企業5名、大学教員21名、学生42名の合計68名（男性59名、女性9名）であった。68名の参加者はここ数年では最も多いと言える。ご協力頂いた関係各位に感謝申し上げたい。

3.2 招待講演・チュートリアルセッション

今年度は「最先端ビジョン技術が拓く画像応用の新境地」というテーマのもと、2名の講師の方に招待講演をお願いした。

初日には、興水大和教授（中京大学）に「情報科学という学問を再考する -物質科学とココロの科学-」という題目でご講演頂いた。人間を含んだ系を課題とすることが多い情報科学において、従来の物質科学的に加えて、人間の感覚やココロといった、定式・定量化することが困難なものを取り扱わなければならない、それらをどのようなアプローチで考え、計測、表現していくべきか、などを画像工学の事例も交えて「議題」として提供していただいた。座長を担当したが、会場内は集中し聴講している参加者の様々な思考が渦巻いているような、通常の学会では感じられない熱く、ある種特異な雰囲気を感じる事ができた。この紙面上では概要も語れない壮大なテーマであるので、詳細はサマーセミナーの講演論文集及

び書誌情報をご参考に勉強していただき、直接奥水教授に議論を持ちかけていただきたい。

2日目の招待講演では、藤吉弘亘准教授（中部大学）による「人を観る技術：People Image Analysis -インビジブルロボットの視覚機能の実現-」の講演が行われ、人を対象とした動画像の分析とその応用に関する10年間の研究成果をご講演頂いた。実時間で動作する人検出のデモビデオ等を用いた分かりやすい講演であった。また、ご自身の海外での研究活動の体験談もお話いただき、若手研究者にとってよい刺激となっていたようである。

以上、2件のご講演は企画側の思惑通り、参加者の知的好奇心を存分に刺激する素晴らしいものであった。企画委員会を代表して深く感謝申し上げたい。

3.3 若葉研究会および研究討論会

学生の発表は若葉研究会 28件、研究討論会 2件の合計 30件であり、ほぼ例年通りの件数が集まった。座長は、山下淳氏（静岡大学）、寺田賢治氏（徳島大学）、藤原孝幸氏（中京大学）、渋谷久恵氏（日立製作所）、村松正吾氏（新潟大学）にお願いした。例年、学生からの質問が少なめであったが、今回は教員がコメントする時間がないほど、学生諸君からの質問が活発であった。贅沢を言えば、もう少し議論の時間が取れるプログラムが組めれば、とも感じた。限られた時間の中、円滑なセッション進行をしていただいた座長各位に感謝したい。

また、最終日には優秀発表賞の発表が行われ、以下の2名の発表者が表彰された。また惜しくも次点となった発表者数名も紹介された。これを糧にして、

今後の研究を更に進められることを期待したい。

優秀発表賞 受賞者（敬称略、順不同）

稲葉 善典（法政大学）
山内 悠嗣（中部大学）

3.4 懇親会

夕食、温泉入浴後の懇親会では、参加者全員が簡単な自己紹介を行った。親密な雰囲気の中、世代を超えたタテの交流、同世代のヨコの交流が行われた。宴会の終盤には、カラオケという飛び道具も導入され、会場一体（？）となって夜遅くまで多めに盛り上がった。この懇親会は合宿形式でしか出来ない大事な交流の場であることを再認識した。また、懇親会会場設営に当たった宇都宮大、芝浦工大の学生アルバイト各位に感謝したい。

4. おわりに

今年度のサマーセミナーも、楽しい雰囲気のうちは無事終了した（図1）。サマーセミナー準備、開催にあたりお世話になった各位には、紙面を拝借して感謝の意を表したい。次年度の企画体制、開催場所、時期は未定であるが、既に魅力的な企画が練られているようである。来年のサマーセミナーにもご期待頂きたい。



図1. サマーセミナー2008 参加者集合写真（2008/8/22、那須オオシマフォーラム研修室にて）